



令和8年度8月 泉ヶ丘地域子育て支援センター

夏はお休みに合わせて出掛ける機会も多いと思います。家族や親しい方達と夏ならではの遊びを楽しんだり、普段とは違う環境で過ごす時間はこどもにとっても特別で貴重な体験となります。しかし一方で、気を付けなければならないことがあることも忘れてはいけません。

こどもは楽しくて気分が高揚していると、注意が散漫になってしまったり、思わぬ行動をしてしまうこともあります。出先や日常の中でこどもを事故から守るためには大人が危険を予測しながら気を付けてあげることが何より大事です。その上で、こどもとも一緒に約束を確認し合い、徐々にこども自身も安全を考えて行動できるように導いてあげましょう。

水の事故から守るために

乳幼児はわずかな水量であっても、また、ほんの数秒間であっても溺れることがあります。昨年は、3cmほどの水深のプールで幼児が溺れるという事故も発生しました。その時目を離したのは1分間ほどであったと言います。人は溺れる時、手足をバタバタさせたり声を出すなど必死にもがくようなイメージがありますが、実際は静かに溺れていきます。 波に足をすくわれたり、滑って転倒して事故につながることもあります。

海やプール・自宅での水遊び等では次のことに注意しましょう。

●こどもからは絶対目を離さない

人出の多い場所では迷子にもなりやすく、その際に事故にあう可能性もあります。また、大人が複数同行していると「誰かが見ている」と油断してしまうこともあるので気を付けましょう。

●海や川では、流れや深みに注意する。プールではこどもの能力にあったプールで遊ばせる。

●浮き輪があっても過信しない

浮き輪を使用していても溺れる事故が発生しています。また、プール内の遊具やフロートの下に潜り込んでしまうこともあるので気を付けましょう。

●自宅で遊んだ後は、すぐ水を流して片付ける

水を入れたままにして、その後こどもが入り込んでしまうと危険です。

車の事故から守るために

レジャーに限らず日常でのお出かけの際も、お子さんと行動する時は必ず手をつなぎ、目を離さないようにしましょう。こどもは小さいのでドライバーからは見えづらいことが多いうえ、こども自身も視野が狭く、大人のように周りが見えていません。また、興味を持ったものが目に入ると急に予想しない行動をとることがあります。こどもが事故に遭うのは、自宅周辺や駐車場内が多いという統計もあります。

併せて以下の事故にも気を付けましょう。

チャイルドシートの不使用・不適切な使用 車のドアやパワーウィンドウに挟まれる 車内での熱中症

その他の事故について

様々な事故を防ぐためにも、旅行や帰省先など普段とは違う環境の中に、こどもにとって危険な場所や危ないものがないかなど確認してみましょう。ぶら下げていた水筒が転倒により腹部にあたって内臓を損傷する事故も起きています。花火によるやけどなどにも注意しましょう。